

# 時事新報

## 時事新報

## 電氣鐵道と地價

東京市中に電氣鐵道を敷設するの必要に就ては前號（五月九日）の紙上に聊か述べる所ありしが近頃の米國電氣雜誌エレクトリカルレビューを見るに左の記事あり  
市中鐵道が大都會近郊の地價を騰貴せしむるの原因たるは世人の既に熟知する所にして殊に運輸力に電氣を應用するよりなりてより以來鐵道と地價と密接の關係あるを以て益々明白に證明せられたるなり  
此現象の最も著明なる實例はボストン市の近郊ブルークラインに於て見るを得べし同處に電氣鐵道の敷設せらるゝ以前には目下鐵道の通過する街道に隣したる地所は一平方呎四十圓乃至六十圓の相場にて賣買せられし處、今日はその價二弗七五仙乃至四圓に騰貴し且つ上等社會の人々が争つて爰に居を構ふるもと爲れり（中略）近來經濟社會の極めて不景氣なるにも拘はらず電氣鐵道沿路に沿つて家屋の新築は甚だ盛にして鐵道の延長するに従つて新築の數は益々増加するの勢なり右の如く地價は日に騰貴して次第に騰貴しつゝあるを以て地面を所有する者は何れも成丈け之を手離さず尙ほ今後一層の騰貴を待つ者の如し吾人は特にボストン市の長況を記載すと雖も此事は決して同市に限りたる現象にあらず何れの都市に在ても電氣鐵道の爲めに近郊地價の騰貴するものと推測可らざる事實なれば大都會の地主たる者は何れも地價が自家一身の利益の爲めに市中電氣鐵道の計畫に賛成力せざる可らず云々

我輩の毎度云ふ如く日本の商賣人が一軒の家屋を商店と居宅との兩用に供するの習慣は商賣の爲めに不利なるのみならず住居人の身に取つても甚だ不便不快不養生なる次第なれば成丈け速に此習慣を除き去るの工夫を所望なれば如何にせん市内に到る處に迅速便宜なる運輸の方法あるに非ざれば店、宅分離の事は到底云ふ可くして行ふ可からざる空論たるを免れず然るに今日の世界に最も迅速に最も便宜なる運輸の方法云へば即ち電氣鐵道に勝るものなく盛に之を敷設したる處には今更で邊鄙の田舎と思ひし處も僅に數分時間に往來するものと容易にして隨つて商人が市外遠隔の地に住居して毎日市中の店に通動するも更に不都合なきに至るは必然なれば彼等は必ず近郊僻閑の場所に住宅を築して専ら起居飲食の用に供し現在市中繁華の地にありし家を賣却して他處の商店を爲すとす可し然るべきは唯に商業家個人の便利なるのみならず前記ボストン市の例の如く是れが爲めに大に近郊の繁華を致し人口を擁し地價を騰貴する等の利益亦少なからざる可し此一事を以て東京市中の電氣鐵道は是非とも速に敷設せざる可らずと我輩の切に警告する所なり

## 戰地巡遊

第一軍司令部附 武内豐太郎  
續和談判の如何に拘はらず休戰條約の締結回を渡るに關せず最終の批准を見る間は我が軍隊の將來に於ける作戦計畫は暫らくも休止するもなき若く其歩を進めざるべからず  
四月十二日 余等が戰ての想像に違はず明早朝歩哨のみの出發行軍の命令降りしかば愉快に一歩を待ち明かして翌十三日拂曉今しも旅路に取り掛りんとする折にして軍中の某々兩氏は當日行の得策なるを説きしも余は斷然余の決心を明して茲に兩氏を説別し午前七時單身門外に出れば門前一面多數の馬軍列して皆出發の命を待つもの如し余は一騎先驅の奇心を生じ馬場邊兵大尉の馬尾に附して近路に向へば前日來の春雨に道一面泥濘となり歩行甚だ自由ならず漸く或る寒村を過り土人を呼び便路を質せば遂に後方の本道を指示せり茲に大尉始め余も後悔しつゝ斜めに玉置の嶺地を横斷して本道に出れば先驅の余等は却て僅かに後列に追ひ付く事となりし時朝來陰鬱たりし空は次第に長閑なる晴空と化せしかば多數の徒歩練列は心も共に開けて路傍の青柳に目を惹き微笑の間水素堡と云へる一寒村に達し群集せる土民に出會しかば馬場邊兵大尉は通譯官をして其何故に耕作に従事せざるやを問はしめしに彼等答へけるや我等の村今秋の領土たるやを辨せず若し妄りに耕作に着手せば如何なる憂目を見るやも知れざれば本業に従事するを得ざるなりと其境遇誠に憐れし通譯官は乃ち懇に其心得を諭し且つ本年の田租を免すべき旨を告げしに一同大に感謝の意を表せり余は之より行々路傍の地を眺るに大抵其儘に放棄しあり土民は唯我が軍隊の前進を眺めて憤然たるのみ亦一人其業に服するものあるを見ず一行中時に渴を感じて水を求め或は煙草の火を求むるあれば我等は欣然として之を給與せり此日行程四里にして温泉濱に泊す例に依り日支混浴の粗食三回分の給與を受け普吟の間に一夜を過せり  
十四日 此日は朝來晴天なりしも漸烈なる南風吹き起り一行の分水嶺を稱する一村落到達せし頃其勢益々猛く激たる嶺原の砂塵正面より吹き付け來り天地眞暗として咫尺を辨せず巴を待す民倉に避難して互に顧みれば孰れも全身土砂に塗れつゝあり休憩暫時の後再び此の烈風と戦ひつゝ幸うして當日の定路三里半を終り大石橋に入る余は後兵站司令部に到り山田少佐と談話を試みんとする時恰も司令官等の一行到着せり依て余は更に副官某氏に就きて土地の情况を聞くに此地は未だ嘗て戰鬪場たりし事なく但だ之より舊口に出づる途中太平山あり此山は兩軍相對して時々砲聲を聞かす所なり左れば此附近一帶の村落は敵の散兵搜索を極め剩し一家屋を破壊し去りたる者甚だ多しと云ふ余は歸途大石橋側の關前嶺を觀し石壁欠け土壘傾れ

て一面兵隊の光景を呈せざるはなし更に歩を轉じて歸宿すれば恰も好し馬場邊兵大尉の來るあり談話道の各村落に及ぶ大尉曰く永春堡の隣村鄭家營村を觀察するに今や舊曆三月中旬を過ぎなんとする頃なるにも拘はらず土人の一人として耕作に従事するものなきは一に戰亂の混雜中散兵若くは盜賊の爲め農具さへも奪ひ去られたるに依り一には壯丁の多く日本軍隊に使役せらるゝに依るものなり又之より三里を距る某村落の如きは天然窟壘に流行し居れり大尉が談話中此天然窟壘の行の一事は痛く余が感服を爲めたり今や我が軍隊は噴瀾たる敵地に在りて正面敵軍を控へ向は往々にして恐るべき惡疫の來襲せん模様あり彼を思ひ此を思へば速かに和戰の局を決せざるべからず  
十五日 天晴れたれども前日來の南風は一層甚だしく余等は坡壘子の遺棄所に至る迄に幾回となく路傍に吹き飛ばされんとしたり暫くして風力較衰ふるの傾きありしかば余は單身來に先立ちて某村頭に到れば土人の埋葬地に二三の臥體あり何れも破壊して或は鬪戰の跡はるゝあり或は皮肉の腐爛して臭氣鼻を衝き來るあり是れ鬪戰の遺骸にして家族殊に父母の死去する時は非常な痛重なる葬式を行ひたる後三箇年間其遺所に據る遺骨毎年清明（舊曆三月十一日）に至れば其屍體に何ひ唯表面計りの流涕痛哭を行ふと云ふ孔孟の遺教今は變じて遺體を曝すなる凶國の兆候既に露たるものあり余は之より更に三里計りを待行したる頃俄かに足痛を起し進退に窮して空しく騎行の士を羨望しつゝありしに折好く一輛の空車の來るに遣ひ之に便乘するも之を得たり足痛の心細さる事を得たる喜びとは實に終世忘れ難き處なり斯くて元々たる砂塵の山路を辿り青石關に到れば其關門は兩山の間礮石を閉鎖したるものにして其中間に煉瓦の門形あるを見るは實に往古に在りては所謂一夫守りて萬卒通じ得ざるの天險なり今も尙ほ此連山には時々猛虎の出沒するありて現に我が軍中中之を見たるものありと云ふ以て其險を想像するに足るべし然るに我が王師の指す處斯る天險を踏破し去りて臺前路を進るものなし當日七里の行程を終り夕陽を負ふて蓋平に入る  
十六日 快晴にして將に發せんとするに先だち余は某處と共に城の内外を觀るに壁壁小なりと雖も蓋も破壊の箇所を見ず蓋も依然たり道路の如きも亦整然たり就中飲料水に至りては之を海城に比し甚だ佳良なるを見ん全市の光景一も戰亂の跡を止むるなく市中の老若男女大輻集來して盛んに商業を營めあり是れ蓋し乃木枝隊の此城市を占領するに當り其激戦一に市外の曠原山麓の間に於て市内に戰争を見せしに依れるなり午後八時總勢列を作りて南門を出で蓋州河を渡り坂臺子に向て進軍す從軍官某氏に謂ふに蓋州河某隊の二個大隊も亦我が一行に伴ふて行軍せり當日も亦連日の如く南風砂塵を捲きて一軍の輜糧名狀すべからず或は所々の民家に逃げ或は路傍の岩石に隠れるものあり斯る時に際し彼れ土人等は孰れも我が行軍者の求めに應じて湯、水若くは煙草の火等を給し其内心はいさ知らず表面の懇切は殆ど悉く漸く進んで鳴珂嶺を超え沙河關の村落に到りて小憩し夫より拖蓋堡の兵站司令部に過ぎ官舎の宿舎に入る此夜怪しき二三隻の銃聲突敵人の鼓譟を聞きしかば司令部にても大に警戒を加へ取り敢ず通譯官に憲兵を附し二手に馴れて其詳報を蒙

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報には毒説詳細なる商況物價の報告あり

明治廿八年五月十一日 土曜日  
舊曆乙未四月十七日（戊午）  
出刊時間 午前八時三十分  
印刷時間 午前九時三十分  
發行所 東京市南區南橋本三丁目  
電話 九百九十五番  
（西曆一千八百九十五年）  
年報 二百三十四日